

名古屋城 水堀における舟運について

1 事業概要

(1) 趣 旨

「特別史跡名古屋城跡保存活用計画」に基づき、水堀を活用し、名古屋城の歴史的価値等をわかりやすく伝える船を運航することによって名古屋城への理解を深めるとともに、名古屋城の魅力向上を図るもの。

特別史跡名古屋城跡保存活用計画「第7章 活用」抜粋

7-1 活用の方向性 (189 ページ)

- 企画・イベントを充実させ、名古屋城への理解を深めるとともに名古屋城の魅力向上を図る。
- ・来場者の遺構への理解をより深められるよう整備現場見学会における体験型の企画や、石垣や堀等の遺構を活用した企画・イベントの開催を検討する。

7-2 活用の方法

7-2-3 企画・イベント (195 ページ)

- (1)名古屋城の価値と本来の魅力をわかりやすく伝える企画・イベントの開催・検討
- 3)遺構を活用した企画・イベントの開催の検討
- ・新たな企画・イベントとして、城内の石垣刻印を巡るツアーや水堀での舟の周遊ツアー、空堀内を歩くツアーなど名古屋城の遺構を活用した企画・イベントの開催を検討する。

(2) 内 容

石垣、隅櫓、天守などの歴史的景観を楽しんでいただくとともに、名古屋城の歴史や魅力を紹介する。

※運航事業者、料金等については今後検討

船着場を設置したうえで、船の調達や運航事業を実施する事業者を公募予定

(3) 運航経路

水堀の南西側エリアから北側エリアにかけて巡回するルートを予定

資料 4-2 … 運航経路図

(4) 船着場の設置

- ・設置場所は、水堀の南西端（辰之口付近）を想定
- ・既存の人工地盤を活用し、史跡への影響を最低限に留める施工法等を検討する。

- ・上下する水位に対応するため、乗船箇所は「浮棧橋」とし、水中に設置するアンカーブロックに結びつけて固定する。

資料 4-3 … 船着場イメージ図

2 今後の予定

史跡への影響を最低限に留め、船着場設置により遺構を損なうことがないように、船着場設置予定地におけるボーリング調査を実施し、許容荷重等を算出したうえで、船着場の施工法をはじめ、形状や安全性等について検討する。(現状変更申請予定)

(1) 調査実施場所

船着場設置予定地（辰之口付近） 資料 4-3 参照

(2) 調査概要

ボーリング長	20m
孔 径	66～86mm（最大掘削孔径：127mm） ※地盤状況によっては、最大掘削孔径の範囲内において、掘削孔の崩壊防止等のためにケーシングパイプを使用する。
主な内容	標準貫入試験、土質試料採取

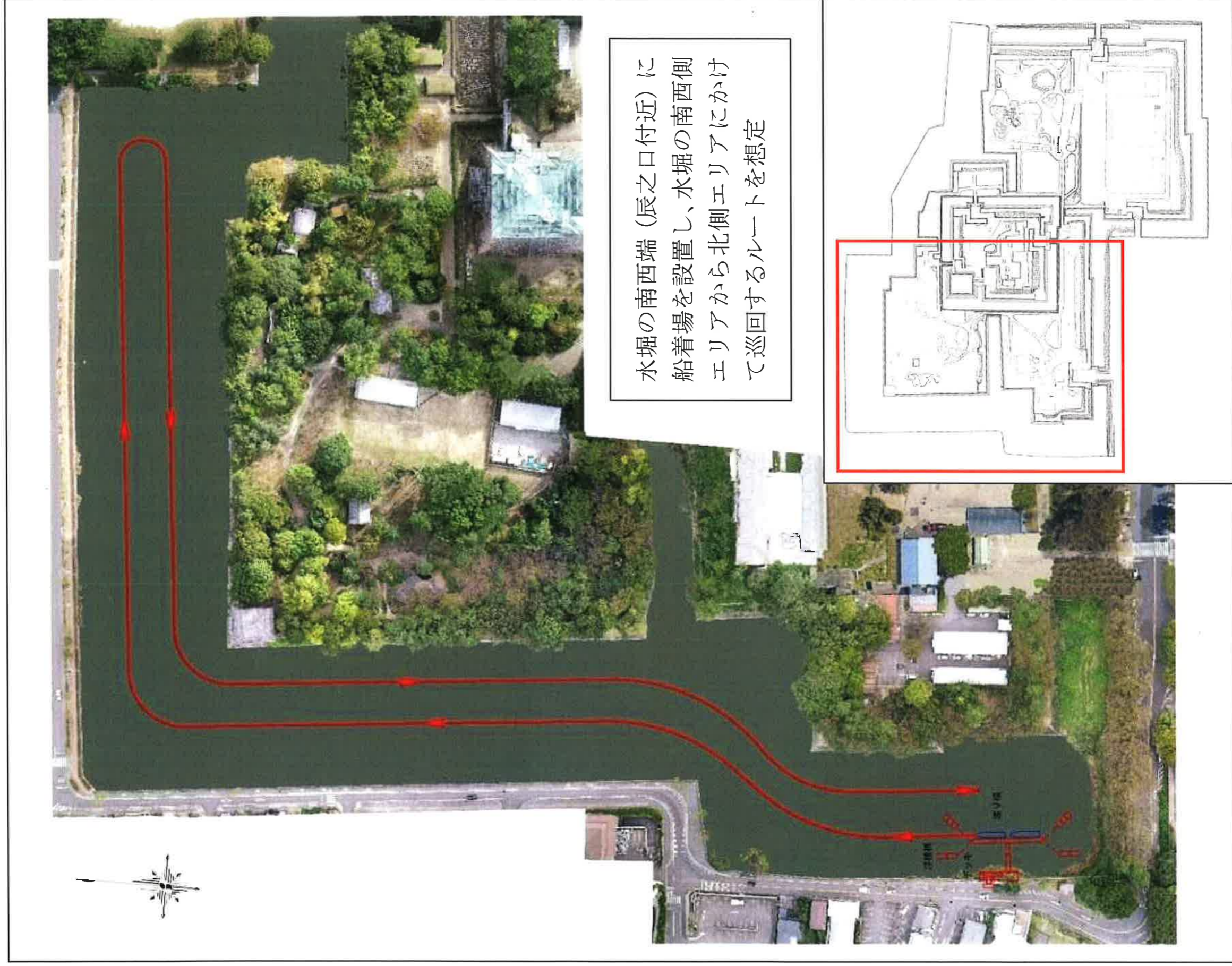
(3) その他

辰之口の人工地盤は、平成 11 年（1999 年）に実施された外堀護岸改修工事の際に設置されたもの（幅 12.5m×奥行き 2.5m）。鋼矢板（長さ：4 m）で囲い、土を埋め戻し、上部にコンクリート（厚さ：10 cm）を打設して人工地盤を構築した。

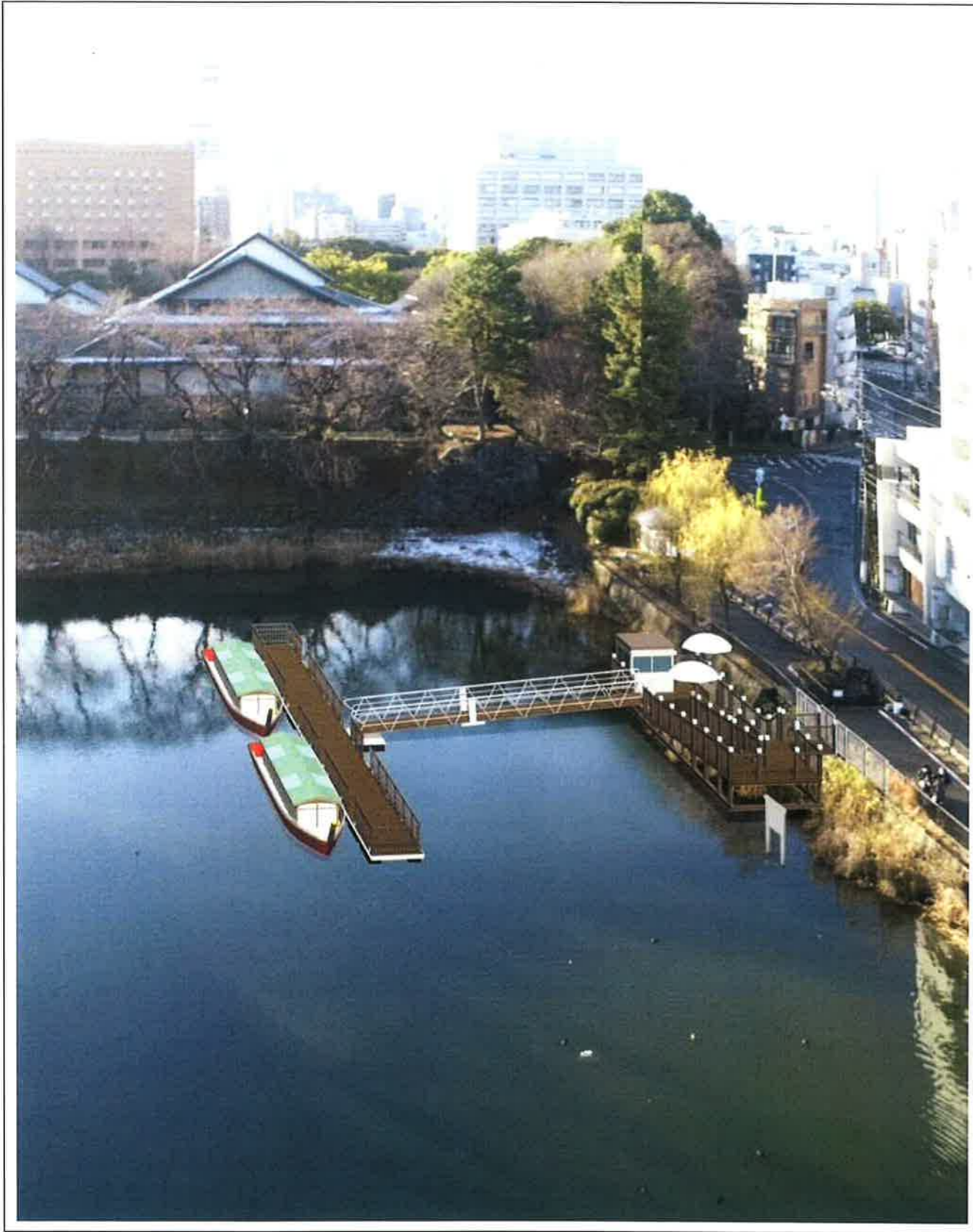


船着場設置予定地

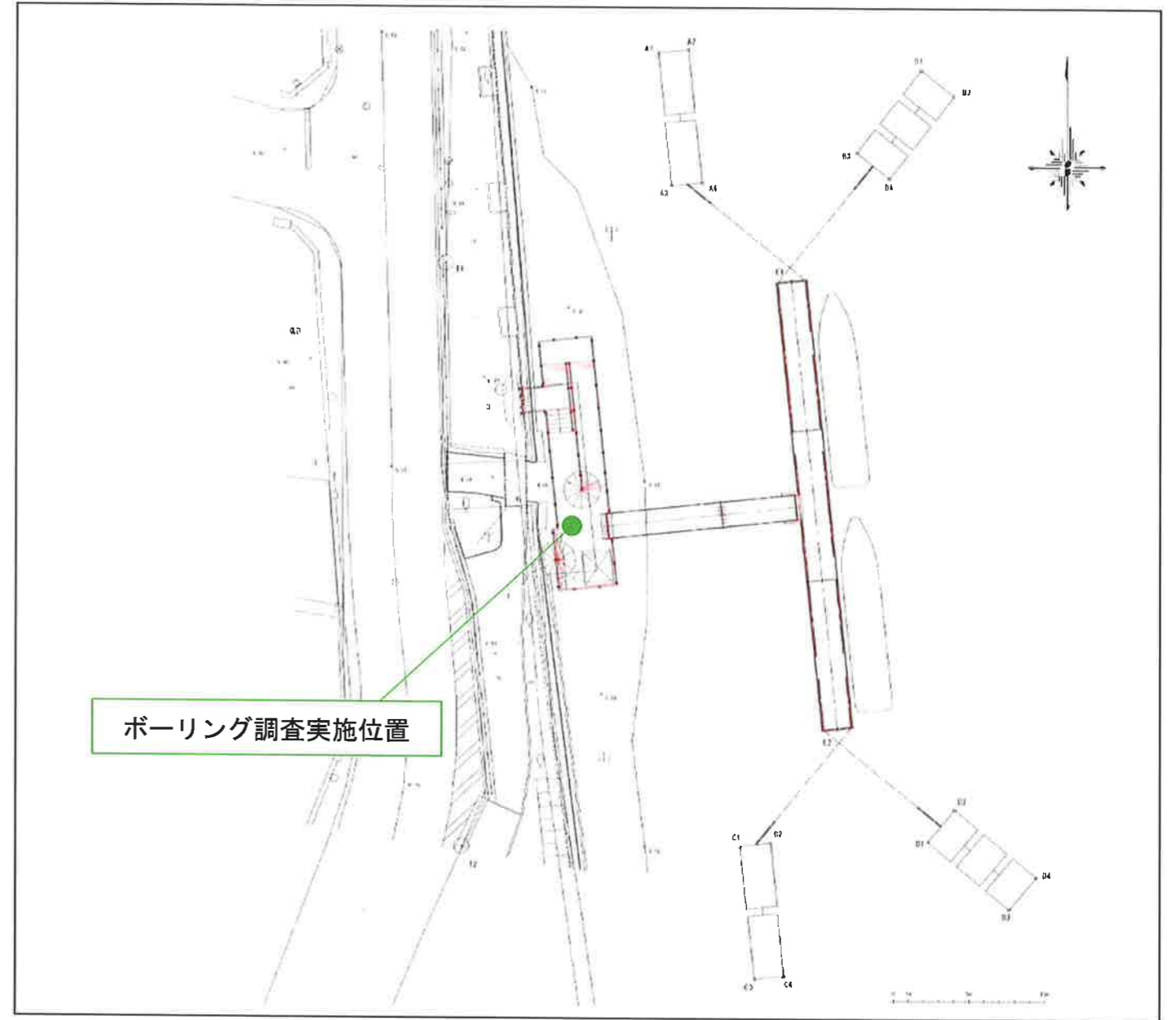
運航経路図 (想定)



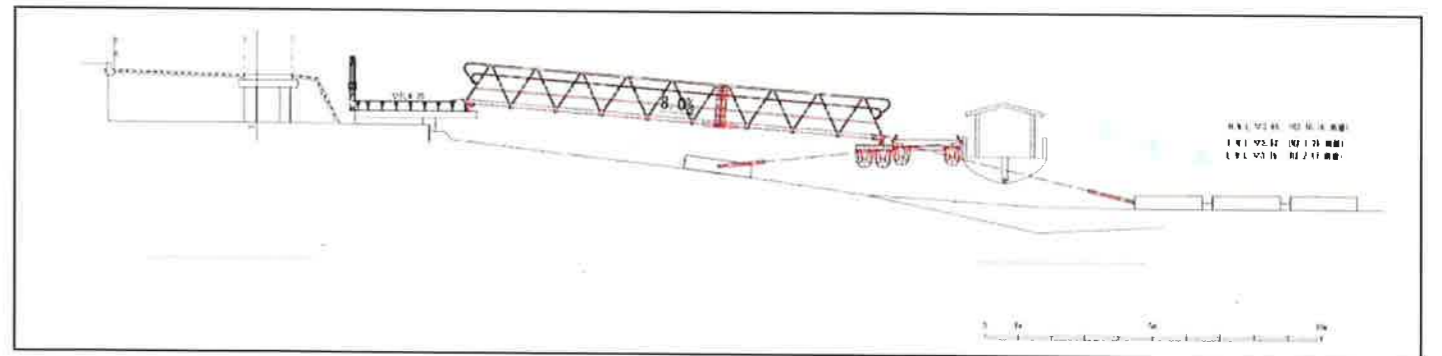
船着場イメージ図



イメージ図



平面図



横断面図